



本内克
天民書

西鄉素洲先生遺訓 全

9
28



本内天氏書

西鄉南洲先生遺訓

研學會藏版

口 9
28

南海海峽
刻
一
卷
陸

同治元年三月廿六日購求

區：小冊子平當今

之对有气觀于如大樽

之或容之儼與靜者

之洪考獨執以守之

同攻
會印

門 9
28

辰
41

存心西口先何心
宛乎在田滴井出萬
滴井忠寶昔實了考
招平親懷和甲先觀戶
田福敏赤澤源治郎

晴山重良三矢藤吉郎
伊敏孝德石木田元輔
池白爽大島龍吉黑
次田治郎春山安勸
石川野正山口三保本

洞光輝 蒙纂茹書
以領回志 今復如也
后淵琢粹 而公於
世々々 如鳥籠臣識



遺訓

一廟堂ニ立チテ大政ヲ為スハ天道ヲ行フモノ
ナレハ些トモ私ヲ挾ミテハ濟マヌモノ也イ
カニモ心ヲ公平ニ操リ正道ヲ踏ミ廣ク賢人
ヲ撰擧シ能ク其職ニ任ユル人ヲ擧ケテ政柄
ヲ執ラシムルハ即チ天意也夫レユヘ真賢
人ト認ル以上ハ直ニ我カ職ヲ讓ル程ナラテ
ハ叶ハヌモノゾ故ニ何程國家ニ勲勞有ル共

其職ニ任ヘ又人ヲ官職ヲ以テ賞スルハ善カ
ラヌコノ第一也官ハ其人ヲ撰ヒテ之ヲ授ケ
功有ル者ニハ俸祿ヲ以テ賞シ之ヲ愛シ置ク
モノゾト申サル、ニ付然ラハ尚書仲虺之誥
ニ德懋ンナルハ官ヲ懋ンニシ功懋ンナルハ
賞ヲ懋ンニスルト之レ有リ徳ト官ト相配シ
功ト賞ト相對スルハ此ノ義ニテ候ヒシヤト
請問セシニ翁欣然トメ其通リゾト申サレキ

一賢人百官ヲ總ヘ政權一途ニ歸シ一格ノ國體
定制無ケレハ縱令人材ヲ登用シ言路ヲ開キ
衆説ヲ容ル、共取捨方向無ク事業雜駁ニメ
成功有ヘカラス昨日出テシ命令ノ今日忽チ
引キ易フルト云様ナルモ皆統轄スル所一ナ
ラスメ施政ノ方針一定セサルノ致ス所也
一政ノ大體ハ文ヲ興シ武ヲ振ヒ農ヲ勵マスノ
三ツニ在リ其他百般ノ事務ハ皆此ノ三ツノ

物ヲ助ルノ具也此三ツノ物ノ中ニ於テ時ニ
 從ヒ勢ニ因リ施行先後ノ順序ハ有レト此ノ
 三ツノ物ヲ後ニメ他ヲ先ニスルハ更ニ無シ
 一萬民ノ上ニ位スル者巳レヲ慎ミ品行ヲ正ク
 シ驕奢ヲ戒メ節儉ヲ勉メ職事ニ勤勞メ人民
 ノ標準トナリ下民其ノ勤勞ヲ氣ノ毒ニ思フ
 様ナラテハ政令ハ行ハレ難シ然ルニ草創ノ
 始ニ立チナガラ家屋ヲ飾リ衣服ヲ文リ美妾

ヲ抱ヘ畜財ヲ謀リナバ惟新ノ功業ハ遂ゲラ
 レ間敷也今ト成リテハ戊辰ノ義戰モ偏ヘニ
 私ヲ營ミタル姿ニ成リ行キ天下ニ對シ戰死
 者ニ對メ面目無キゾトテ頻リニ淚ヲ催サレ
 ケル

一或ル時幾歷辛酸志始堅丈夫玉碎愧孰全一家
 遺事人知否不為兒孫買美田トノ七絶ヲ示サ
 レテ若シ此ノ言ニ違ヒナハ西郷ハ言行及シ

タルトテ見限ラレヨト申サレケル

一人材ヲ採用スルニ君子小人ノ辨酷ニ過クル
時ハ却テ害ヲ引起スモノ也其故ハ開闢以來
世上一般十二七八ハ小人ナレハ能ク小人ノ
情ヲ察シ其長所ヲ取り之ヲ小職ニ用ヒ其材
藝ヲ盡サシムル也東湖先生申サレシハ小人
程才藝アリテ用便ナレハ用ヒサレハナラヌ
モノ也去リトテ長官ニ居ヘ重職ヲ授クレハ

必ス邦家ヲ覆スモノユヘ決メ上ニハ立テラ
レヌモノゾト也

一事大小ト無ク正道ヲ蹈ミ至誠ヲ推シ一事ノ
詐謀ヲ用ユ可カラス人多クハ事ノ指支ユル
時ニ臨ミ作畧ヲ用テ一旦其ノ指支ヲ通セハ
跡ハ時宜次第工夫ノ出来ル様ニ思ヘ共作略
ノ煩ヒ此度生シ事必ス敗ル、モノゾ正道ヲ
以テ之ヲ行ヘハ目前ニハ迂遠ナル様ナレ共



先キニ行ケハ成功ハ早キモノ也

一 廣ク各國ノ制度ヲ採リ開明ニ進マントナラ
ハ先ツ我國ノ本體ヲ居ヘ風教ヲ張リ然メ後
徐カニ彼ノ長所ヲ斟酌スルモノゾ否ラスメ
猥リニ彼レニ效ヒナハ國體ハ衰頽シ風教ハ
萎靡メ匡救ス可カラス終ニ彼ノ制ヲ受クル
ニ至ラントス

一 忠孝仁愛教化ノ道ハ政事ノ大本ニメ萬世ニ

亘リ宇宙ニ彌リ易フ可カラサルノ要道也道
ハ天地自然ノ物ナレハ西洋ト雖モ決メ別無
シ

一人智ヲ開發スルトハ愛國忠孝ノ心ヲ開クナ
リ國ニ盡シ家ニ勤ムルノ道明カナラハ百般
ノ事業ハ從テ進歩ス可シ或ヒハ耳目ヲ開發
セントテ電信ヲ懸ケ鐵道ヲ敷キ蒸氣仕掛ケ
ノ器械ヲ造立シ人ノ耳目ヲ聳動スレ共何ニ

故電信鐵道ノ無クテ叶ハヌゾ缺クヘカラサ
 ルモノゾト云處ニ目ヲ注カス猥リニ外國ノ
 盛大ヲ羨ミ利害得失ヲ論セズ家屋ノ構造ヨ
 リ玩弄物ニ至ル迄一々外國ヲ仰キ奢侈ノ風
 ヲ長シ財用ヲ浪費セハ國力疲弊シ人心浮薄
 ニ流レ結局日本身代限りノ外有ル間敷也

一文明トハ道ノ普ク行ハル、ヲ贊稱セル言ニ
 メ宮室ノ壯麗衣服ノ美麗外觀ノ浮華ヲ言フ

ニハ非ス世人ノ唱フル所口何ガ文明ヤラ何
 ガ野蠻ヤラ些トモ分ラヌゾ予嘗テ或人ト議
 論セシ、有リ西洋ハ野蠻ヂヤト云ヒシカバ
 否ナ文明ゾト争フ否ナ否ナ野蠻ヂヤト疊ミ
 カケシニ何トテ夫レ程ニ申スニヤト推セシ
 ヌヘ實ニ文明ナラハ未開ノ國ニ對シナバ慈
 愛ヲ本トシ懇々説諭メ開明ニ導ク可キニ左
 ハ無クメ未開矇昧ノ國ニ對スル程ムゴク殘

忍ノ事ヲ致シ已レヲ利スルハ野蠻チヤト申
セシカハ其人口ヲ答メテ言無カリキトテ笑
ハレケル

一西洋ノ刑法ハ専ラ懲戒ヲ主トメ苛酷ヲ戒メ
人ヲ善良ニ導クニ注意深シ故ニ囚獄中ノ罪
人ヲ如何ニモ緩ルヤカニメ鑒誡トナル可
キ書籍ヲ與ヘ事ニ因リテハ親族朋友ノ面會
ヲモ許スト聞ケリ尤モ聖人ノ刑ヲ設ケラレ

シモ忠孝仁愛ノ心ヨリ鰥寡孤獨ヲ愍ミ人ノ
罪ニ陷イルヲ恤ヒ給ヒシハ深ケレ共實地手
ノ届キタル今ノ西洋ノ如ク有シニヤ書籍ノ
上ニハ見ヘ渡ラス實ニ文明チヤト感スル也
一租稅ヲ薄クメ民ヲ裕ニスルハ即チ國力ヲ養
成スル也故ニ國家多端ニメ財用ノ足ラサル
ヲ苦ム氏租稅ノ定制ヲ確守シ上ヲ損シテ下
ヲ虐タケヌモノ也能ク古今ノ事迹ヲ見ヨ道

ノ明カナラサル世ニメ財用ノ不足ヲ苦ム時
ハ必ス曲知小慧ノ俗吏ヲ用ヒ巧ミニ聚斂メ
一時ノ缺乏ニ給スルヲ理財ニ長セル良臣ト
ナシ手段ヲ以テ苛酷ニ民ヲ虐タケルユヘ人
民ハ苦惱ニ堪ヘ兼子聚斂ヲ逃ント自然譎詐
狡猾ニ趣キ上下互ニ欺キ官民敵讐ト成リ終
ニ分崩離析ニ至ルニアラスヤ

一會計出納ハ制度ノ由テ立ツ所口百般ノ事業

皆ナ是レヨリ生シ經綸中ノ樞要ナレハ慎
スハナラヌ也其大體ヲ申サバ入ルヲ量リテ
出ルヲ制スルノ外更ニ他ノ術數無シ一歳ノ
入ルヲ以テ百般ノ制限ヲ定メ會計ヲ總理ス
ル者身ヲ以テ制ヲ守リ定制ヲ超過セシム可
カラス否ラスメ時勢ニ制セラレ制限ヲ慢ニ
シ出ルヲ見テ入ルヲ計リナハ民ノ膏血ヲ絞
ルノ外有ル間敷也然ラハ假令事業ハ一旦進

歩スル如ク見ユル共國力疲弊メ濟救ス可カ
ラス

一常備ノ兵數モ亦會計ノ制限ニ由ル決メ無根
ノ虚勢ヲ張ル可カラス兵氣ヲ鼓舞メ精兵ヲ
仕立ナバ兵數ハ寡クトモ折衝禦侮共ニ事缺
ク間敷也

一節義廉耻ヲ失テ國ヲ維持スルノ道決メ有ラ
ス西洋各國同然ナリ上ニ立ツ者下ニ臨テ利

ヲ争ヒ義ヲ忘ル、時ハ下皆ナ之ニ倣ヒ人心
忽チ財利ニ趨リ卑吝ノ情日々長シ節義廉耻
ノ志操ヲ失ヒ父子兄弟ノ間モ錢財ヲ争ヒ相
ヒ讐視スルニ至ル也此ノ如ク成リ行カハ何
ヲ以テ國家ヲ維持ス可キゾ徳川氏ハ將士ノ
猛キ心ヲ殺ギテ世ヲ治メシカ共今ハ昔時戰
國ノ猛士ヨリ猶一層猛キ心ヲ振ヒ起サスハ
萬國對峙ハ成ル間敷也普佛ノ戰佛國三十萬

ノ兵三ヶ月ノ糧食有テ降伏セシハ餘リ算盤
ニ精シキ故ナリトテ笑ワレキ

一正道ヲ蹈ミ國ヲ以テ斃ル、ノ精神無クハ外
國交際ハ全カル可カラス彼ノ強大ニ畏縮シ
圓滑ヲ主トメ曲ケテ彼ノ意ニ順從スル時ハ
輕侮ヲ招キ好親却テ破レ終ニ彼ノ制ヲ受ル
ニ至ラン

一談國事ニ及ヒシ時慨然トメ申サレケルハ國

ノ凌辱セララル、ニ當リテハ縱令國ヲ以テ斃
ル、共正道ヲ踐ミ義ヲ盡スハ政府ノ本務也
然ルニ卒日金穀理財ノ事ヲ議スルヲ聞ケハ
如何ナル英雄豪傑カト見ユレ共血ノ出ル事
ニ臨メハ頭ヲ一處ニ集メ唯目前ノ苟安ヲ謀
ルノミ戰ノ一字ヲ恐レ政府ノ本務ヲ墜シテ
ハ商法支配所ト申スモノニテ更ニ政府ニハ
非升ル也

一古ヨリ君臣共ニ已レヲ足レリトスル世ニ治
 功ノ上リタルハアラス自分ヲ足レリトセザ
 ルヨリ下々ノ言モ聽キ入ル、モノ也已レヲ
 足レリトスレハ人已レノ非ヲ言ヘハ忽チ怒
 ルユヘ賢人君子ハ之ヲ助ケ又ナリ

一何程制度方法ヲ論スル共其人ニ非サレハ行
 ハレ難シ人有テ後方法ノ行ハル、モノナレ
 バ人ハ第一ノ寶ニメ已レ其人ニ成ルノ心懸

ケ肝要ナリ

一 道ハ天地自然ノ道ナルユヘ講學ノ道ハ敬天
 愛人ヲ目的トシ身ヲ修スルニ克己ヲ以テ終
 始セヨ已レニ克ツノ極功ハ母意母必母固母
 我ト云ヘリ總メ人ハ已レニ克ツヲ以テ成リ
 自ラ愛スルヲ以テ敗ル、ゾ能ク古今ノ人物
 ヲ見ヨ事業ヲ創起スル人其事大抵十二七八
 迄ハ能ク成シ得レ共残り二ツヲ終リ迄成シ

得ル人ノ希レナルハ始ハ能ク已レヲ慎ミ事
 ヲモ敬スル故功モ立チ名モ顯ル、ナリ功立
 チ名顯ル、ニ隨ヒイツシカ自ラ愛スル心起
 リ恐懼戒慎ノ意弛ミ驕矜ノ氣漸ク長シ其成
 シ得タル事繁ヲ負ミ苟モ我カ事ヲ仕遂ント
 テマヅキ仕事ニ陷イリ終ニ敗ル、モノニテ
 皆ナ自ラ招ク也故ニ已レニ克チテ睹ズ聞カ
 ガル所ニ戒慎スルモノ也

一已レニ克ツニ事々物々時ニ臨ミテ克ツ様ニ
 テハ克チ得ラレヌナリ兼テ氣像ヲ以テ克チ
 居レヨト也

一學ニ志ス者規模ヲ宏大ニセズハ有ル可カラ
 ス去リトテ唯此コニノミ偏倚スレハ或ハ身
 ヲ修スルニ疎ニ成リ行クユヘ終始已レニ克
 チテ身ヲ修スル也規模ヲ宏大ニメ已レニ克
 チ男子ハ人ヲ容レ人ニ容レラレテハ濟マヌ

モノト思へヨト古語ヲ書テ授ケラル

恢宏其志氣者人之患莫大乎自私自吝安於卑俗而不以古人自期

古人ヲ期スルノ意ヲ請問セシニ堯舜ヲ以テ手本トシ孔子ヲ教師トセヨトゾ

一 道ハ天地自然ノ物ニメ人ハ之ヲ行フモノナレハ天ヲ敬スルヲ目的トス天ハ人モ我モ同一ニ愛シ給フユヘ我ヲ愛スル心ヲ以テ人ヲ

愛スル也

一人ヲ相手ニセズ天ヲ相手ニセヨ天ヲ相手ニメ已レヲ盡シ人ヲ答メズ我カ誠ノ足ラサルヲ尋ヌ可シ

一 已レヲ愛スルハ善カラヌノ第一也修業ノ出来ヌモ事ノ成ラヌモ過ヲ改ムルノ出来ヌモ功ニ伐リ驕驕ノ生スルモ皆ナ自ラ愛スルカ為ナレハ決メ已レヲ愛セヌモノ也

一過チヲ改ルニ自ラ過タト升ヘ思ヒ付カハ夫
レニテ善シ其事ヲバ棄テ顧ミズ直ニ一步踏
出ス可シ過ヲ悔シク思ヒ取繕ハントテ心配
スルハ譬ヘハ茶碗ヲ割リ其ノ缺ケヲ集メ合
セ見ルモ同ニテ詮モ無キ丁也

一道ヲ行フニハ尊卑貴賤ノ差別無シ摘シテ言
ヘハ堯舜ハ天下ニ王トメ萬機ノ政事ヲ執リ
給ヘ共其ノ職トスル所ハ教師也孔夫子ハ魯

國ヲ始メ何方ヘモ用ヒラレス屢々困厄ニ逢
ヒ匹夫ニテ世ヲ終ヘ給ヒシカ共三千ノ徒皆
十道ヲ行ヒシ也

一 道ヲ行フ者ハ固ヨリ困厄ニ逢フモノナレハ
如何ナル艱難ノ地ニ立ツ氏事ノ成否身ノ死
生杯ニ少シモ關係セヌモノ也事ニハ上手下
手有リ物ニハ出來ル人出來サル人有ルヨリ
自然心ヲ動ス人モ有レ共人ハ道ヲ行フモノ

ユヘ道ヲ踏ムニハ上手下手モ無ク出来サル
人モ無シ故ニ只管ラ道ヲ行ヒ道ヲ樂ム若シ
艱難ニ逢フテ之ヲ凌ントナラバ彌々道ヲ行
ヒ道ヲ樂ム可シ予壯年ヨリ艱難ト云フ艱難
ニ罹リシユヘ今ハドンナ事ニ出會フ共動搖
ハ致スマジ夫レタケハ仕合セナリ
一命チモイラズ名モイラス官位モ金モイラヌ
人ハ仕抹ニ困ルモノ也此ノ仕抹ニ困ル人ナ

ラテハ艱難ヲ共ニメ國家ノ大業ハ成シ得ラ
レ又ナリ去レ共个様ノ人ハ凡俗ノ眼ニハ見
得ラレヌゾト申サル、ニ付孟子ニ天下ノ廣
居ニ居リ天下ノ正位ニ立チ天下ノ大道ヲ行
フ志ヲ得レハ民ト之ニ由リ志ヲ得サレハ獨
リ其道ヲ行フ富貴モ淫スルヲ能ハス貧賤モ
移スヲ能ハス威武モ屈スルヲ能ハスト云ヒ
シハ今仰セラレシ如キノ人物ニヤト問ヒシ

カバイカニモ其ノ通り道ニ立チタル人ナラ
デハ彼ノ氣像ハ出ヌ也

一 道ヲ行フ者ハ天下舉テ毀ルモ足ラサルトセ
ス天下舉テ譽ルモ足レリトセサルハ自ラ信
スルノ厚キ力故也其ノ工夫ハ韓文公ガ伯夷
ノ頌ヲ熟讀メ會得セヨ

一 道ニ志ス者ハ偉業ヲ貴ハヌモノ也司馬溫公
ハ閨中ニテ語リシ言モ人ニ對メ言フベカラ

サル事無シト申サレタリ獨ヲ慎ムノ學推テ
知ル可シ人ノ意表ニ出テ一時ノ快適ヲ好ム
ハ未熟ノ事ナリ戒ム可シ

一 平日道ヲ蹈マサル人ハ事ニ臨テ狼狽シ處分
ノ出來ヌモノ也譬ヘハ近隣ニ出火有ランニ
平生處分有ル者ハ動搖セスメ取仕抹モ能ク
出來ルナリ平日處分無キ者ハ唯狼狽メ中々
取仕抹トコロニハ之レ無キゾ夫レモ同シニ

テ平生道ヲ蹈ミ居ル者ニ非レハ事ニ臨ミテ
策ハ出来ヌモノ也予先年出陣ノ日兵士ニ向
ヒ我が備ヘノ整不整ヲ唯味方ノ目ヲ以テ見
ズ敵ノ心ニ成リテ一ツ衝テ見ヨ夫レハ第一
ノ備ゾト申セシトゾ。

作略ハ平日致サヌモノゾ作畧ヲ以テヤリタ
ル事ハ其迹ヲ見レハ善カラサルヲ判然ニメ
必シタリ之レ有ル也唯戰ニ臨ミテ作略無ク

ハアハルヘカラズ併シ平日作略ヲ用レハ戰ニ
臨ミテ作畧ハ出来ヌモノゾ孔明ハ平日作略
ヲ致サヌユヘアノ通り奇計ヲ行ハレタルゾ
予嘗テ東京ヲ引キシ時弟ヘ向ヒ是迄必シモ
作畧ヲヤリタル事有ラヌユヘ跡ハ聊カ濁ル
マヅ夫レ丈々ハ見ント申セシトゾ。

一人ヲ籠絡メ陰ニ事ヲ謀ル者ハ好シ其事ヲ成
シ得ル共慧眼ヨリ之ヲ見レハ醜狀著ルシキ

ゾ人ニ推スニ公卒至誠ヲ以テセヨ公卒ナラ
サレハ英雄ノ心ハ決メ攬ラレヌモノ也

一聖賢ニ成ラント欲スル志無ク古人ノ事跡ヲ
見迪モ企テ及ハヌト云フ様ナル心ナラハ戰
ニ臨ミテ逃ルヨリ猶ホ卑怯ナリ朱子モ白刃
ヲ見テ逃ル者ハドフモナラヌト云ハレタリ
誠意ヲ以テ聖賢ノ書ヲ讀ミ其ノ處分セラレ
タル心ヲ身ニ體シ心ニ驗スル修行致サズ唯

个様ノ言个様ノ事ト云フノミヲ知リタルト
モ何ノ詮無キモノ也予今日人ノ論ヲ聞クニ
何程尤モニ論スル共處分ニ心行キ渡ラス唯
口舌ノ上ノミナラハ少シモ感スル心之レ無
シ眞ニ其ノ處分有ル人ヲ見レハ實ニ感シ入
ル也聖賢ノ書ヲ空ク讀ノミナラハ譬へハ人
ノ劍術ヲ傍觀スルモ同ジニテ少シモ自分ニ
得心出來ス自分ニ得心出來スハ萬一立千合

へト申サレシ時逃ルヨリ外有ル間敷也

一 天下後世迄モ信仰悦服セラル、モノハ只是

一 箇ノ真誠也古ヘヨリ父ノ仇ヲ討チシ人其

ノ麗ツ舉テ數ヘ難キ中ニ獨リ曾我ノ兄弟ノ

ミ今ニ至リテ兒童婦女子迄モ知ラサル者ノ

有ラサルハ衆ニ秀テ、誠ノ篤キ故也誠ナラ

スメ世ニ譽ラル、ハ僥倖ノ譽也誠篤ケレハ

縱令當時知ル人無クモ後世必ス知己有ルモ

ノ也

一 世人ノ唱フル機會トハ多クハ僥倖ノ仕當テ

タルヲ言フ真ノ機會ハ理ヲ盡メ行ヒ勢ヲ審

カニメ動クト云ニ在リ今日國天下ヲ憂フル

誠心厚カラスメ只時ノハヅミニ乘メ成シ得

タル事業ハ決メ永續セヌモノゾ

一 今ノ人才識有レハ事業ハ心次第ニ成サル、

モノト思ヘ共才ニ任セテ為ス事ハ危クメ見

テ居ラレヌモノゾ體有リテコソ用ハ行ハル
、ナリ肥後ノ長岡先生ノ如キ君子ハ今ハ似
タル人ヲモ見ルヲナラヌ様ニナリタルトテ
嘆息ナサレ古語ヲ書テ授ケラル

夫天下非誠不動非才不治誠之至者其動也
速才之周者其治也廣才與誠合然後事可成
一翁ニ後テ犬ヲ驅リ兔ヲ追ヒ山谷ヲ跋渉メ終
日獵リ暮シ一田家ニ投宿シ浴終リテ心神イ

ト爽快ニ見ヘサセ給ヒ悠然トメ申サレケル
ハ君子ノ心ハ常ニ斯ノ如クニコソ有ラント
思フナリト

一身ヲ修シ已レヲ正メ君子ノ體ヲ具フル共處
分ノ出來ヌ人ナラハ木偶人モ同然ナリ譬へ
ハ數十人ノ客不意ニ入り來ンニ假令何程饗
應シタク思フ共兼テ器具調度ノ備無ケレハ
唯心配スルノミニテ取賄フ可キ様有間敷ゾ

常ニ備アレハ幾人ナリ共數ニ應メ賄ハルハ也夫レ故卒日ノ用意ハ肝腎ゾトテ古語ヲ書テ賜リキ

文非鉛槧也必有慶事之才武非劍楯也必有料敵之智才智之所在一焉而已

追加

一事ニ當リ思慮ノ乏シキヲ憂フルト勿レ凡思慮ハ卒生默坐静思ノ際ニ於テスヘシ有事ノ

時ニ至リ十二八九ハ履行セララルモノナリ事ニ當リ率爾ニ思慮スルトハ譬言上ハ臥床夢寐ノ中奇策妙案ヲ得ルカ如キモ翌朝起床ノ時ニ至レハ無用ノ妄想ニ類スルト多シ

一漢學ヲ成セル者ハ彌漢籍ニ就テ道ヲ學ヘシ道ハ天地自然ノ物東西ノ別ナシ苟モ當時万国對嶼ノ形勢ヲ知ラント欲セハ春秋左氏傳ヲ熟讀シ助クルニ孫子ヲ以テスヘシ當時ノ

形勢卜略亦大差ナカル一シ

南洲西郷先生遺訓終

錦浦片淵君當世偉男子也將梓西郷南洲翁之遺稿曰警天下臥余有臨池之癖讀寫一通余愛而讀之修身之要治國之策咸收此中焉嗚呼若翁之言固偉而君之此舉亦甚偉矣獨憾我書之未嫻耳然今余書因臥傳千載則其為幸亦何如也且讀且寫所得自多不復覺神之勞而筆之秃也時乙未菊月九日也 木内天民謹寫

東京麴町區下二番町

研學會出版

編輯人

片淵

琢

東京市麴町區下二番町四十二番地

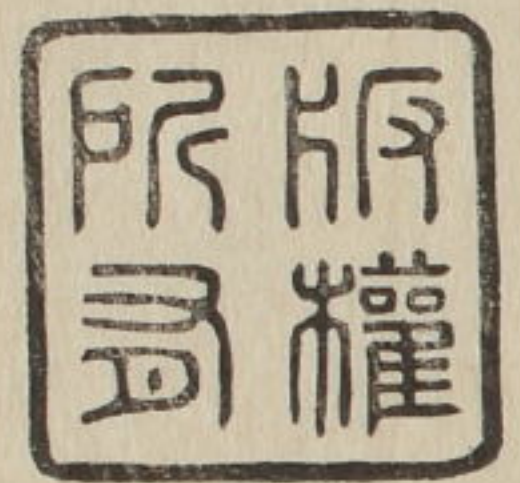
京都府士族

塩澤

梅

東京市麴町區下二番町四十二番地

印刷兼發行



明治二十九年二月廿三日印刷
明治二十九年二月廿五日出版

賣

捌

書

肆

東京神田裏神保町

上田屋

全京橋尾張町

東海堂

全神田表神保町

東京堂

全神田表神保町

六石書房

本書は學生諸子習字の模範に供
 せんとため活版に採らすて殊更
 二本版とし有名なる書家吉田
 祿末内天氏直先生の揮毫を
 請へり晩祿の書勁道にして長三
 妙を凌ぎ天氏の書奇雅にして古
 体の趣きあり學者親て世の木版
 版下と全一親せす人は幸甚

編者識

